
白玉のお話

白玉www

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

白玉のお話

【Zコード】

Z3368M

【作者名】

白玉www

【あらすじ】

いきなりだがこの小説は白玉だ
簡単に言えば白玉な気持ちになる

……まあ変な事は言わないが読まない方がいいかもしね
もしこの小説を読むなら『白玉www(しらたまwww)』と
一言言つて頂けると幸いです

まあ内容はこんな感じかな

……つってか内容一言も言つてねえええ！！

では簡単に……主人公（ ）が高校に入学し高校生活を有効に使う

というお話

主人公は不良で彼女いない歴＝年齢で恋愛に興味Nothiing
いつ設定でいくか

誹謗中傷喜びます

字の指摘助かります

処女作なので優しくお願ひします

一週間に2話ペースで 1話のページ数はバラバラです

まあこんな感じで適当な作者が書く小説を見ないで頂きたい

(前書き)

ホントに読むの?

今なり聞こへ

TOP < 50 -

ガヤガヤガヤガヤ

？？「…………」

まだ肌寒い4月の昼、ある商店街で一人の少年が歩いていた

少年はボサボサの黒い髪に黒いサングラス

白いシャツの上には黒の生地に背中に龍の刺繡が施されているスカジャン

ズボンは黒のスウェットパンツを履いている

肌は……顔黒ではなく薄めの焦げ茶色

肌まで真っ黒じゃないが見た感じ黒づくめだ

まあそんな黒づくめの少年がじょり商店街を歩いていくと薄暗い路地裏に入していく

？？「…………」

……無言で

薄暗い路地裏に入り歩く」と約10分
長くもなく短くもない適度な時間である場所について

その場所は……

公園

えつ公園！？って思った読者の方々

とりあえず白玉wwwと叫びましょ

……話それたな

んで少年の田舎の公園の名前『やすいや』

名前はなんか恐いが滑り台やブランコなどがある極普通の公園だ

？？？「…………」

少年は公園に着くと無言のまま公園内をキヨロキヨロと観回していり、そして少年は何かを見つけたのか無言のまま公園内に入っていた

そのまま少年は真っ直ぐに歩いていく

不良が溜まつてこる所に……

不良A「…………んですよ、あそこで超可愛い女の子をナンパしちよつといふ？」

不良B「どうした？……なんだあの黒い小僧？」

不良達は少年の存在に気づいたのか一気に不良達の視線が少年に向

き注目の的となつた

少年はそんなお構いないとサラッと視線を華麗にスルーして不良達の所へ着き一言

？？「果たし状出したのドイツだ？」

少年の一言で一瞬にして不良達が呆気にとられたが次の瞬間一斉に笑い始めた

不良B「果たし状だつてよアハハハ」

不良D「アハハハ、コイツ変な事言つてんけどビーヴル？」

不良C「アハハハほつとけよそんな事つてかマジ笑える」

不良A「ハハハおもしれえなこのガキ

笑わせてくれたご褒美として特別に見逃してやるからおつと帰りな

少年「いや俺が言つてる事聞こえた？」

果たし状出したの誰?つて聞いてんの」

不良A「まだ笑わせる氣かブヘラツ」

不良C「……だ、大丈夫か!?」

不良B「おいガキ

俺達に手を出したらどんな事になるのかわかつてんだろ?」

少年「あつ手出したらダメだった?
なら足にしよ」

不良B「いやそういう問題じゃねフグッ」

不良D「不良Bーー!」

この糞ガキ俺が相手して「お前らうつせえぞ」つ……!」

少年の攻撃で不良達が騒いでいる事に嫌気がさしたのか滑り台の下
から不良達の頭と思われる人が出てきた

頭「お前らうつせえぞコノヤロウ

俺がぐつぐつり寝ていい……んつなんだこの有様」状況は不良A・B
が何故か痙攣しながら倒れていて不良Cが不良Aを必死に揺さ振つ
ている

うわっちょっと不良C揺すりすぎだつて

明らかに不良A揺さ振りが原因で顔真っ青じやん

……可哀相一

そしてあの真ん中に立っている少年

……明らかにあいつが犯人だな

それにしてもあの少年どつかで見た事あるよつた気がする

うーん、えつと……！…そうだ

頭「おいそこの少年
てめえか？」「レやつたの」

少年「Yes」

英語で返つてきた……

つてかこのガキホントに来やがった

頭「読んだか？俺の自信作」

少年「ああバツチリ

つてか漢字のミス多すぎ

公園が講演になつてたし、黒い服が黒井さんの服になつてた

まあ最初の講演は許してやるとして……次のなんだよあれ

なんで間違えるんだよ……

頭「馬鹿だし」

少年「……うん納得

まあなんで果たし状出したのかわからんが勝負してやるよ

準備運動終わつたし

頭「そりやよかつた

本気でいくからな覚悟しな

少年「それこいつのセツツね
まあ半分は出してやるよ」

(後書き)

1話のページ数少くなねー?って思った読者の方々
……絶対に多いと思う

自分でもう少しうつたし

まあ最初だからしょうがない!!

これから少しずつページ数を増やしていくよーーー……多分

字の指摘や誹謗中傷ようしく

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3368m/>

白玉のお話

2010年10月9日22時16分発行